

開講年度	令和8年度	開講課程	博士前期課程
授業名	生命薬学特別演習		
開講キャンパス	伏虎	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1～2年次
必修・選択の別	選択	単位	2単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	(病態解析学) 病態解析 (生物化学) 遺伝情報発現 (生体機能解析学) 中枢神経、慢性疾患 (衛生薬学) 代謝酵素		
担当教員 (下線：科目責任者)	医		
	薬		
授業の概要	遺伝子発現調節、中枢神経系機能異常に基づく慢性疾患の病態生理、体内動態などに関するテーマについて研究手法や実験手技について理解を深める。さらに研究成果の解釈法や発表方法について学ぶ。		
到達目標	(病態解析学) 「物質」と「生体応答」を紐づける体内動態を基盤に、疾患にとどまらず、未病の段階から総合的に理解・介入するための手法を提案できる。 (生物化学) 遺伝子発現調節、再生・がん化、毒性評価に関する内容の理解を深め、それらに関する課題発見・解決能力を修得する。 (生体機能解析学) 中枢神経系の機能異常に基づく慢性疾患の病態生理および治療戦略に関する基本的知識を備え、当該分野における課題を解決するための方法を議論・提案できる。 (衛生薬学) 代謝酵素の発現調節機構や生理機能、疾患や副作用との関連性に関する研究を進めるための実験手法や問題解決能力を修得し、説明できる。		

授業計画	<p>(病態解析学) 「物質」と「生体応答」を紐づける体内動態を基盤に、疾患にとどまらず、未病の段階から総合的に理解・介入するための講義を双方向で行う。その上で、最新の文献を理解し、教員と議論することで、問題解決能力を高める。(長野一也/山下琢矢/堤峻太郎)</p> <p>(生物化学) 遺伝子発現調節、再生・がん化、毒性評価に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、遺伝子発現調節、再生・がん化、毒性評価に関する理解を深める。(長田茂宏)</p> <p>(生体機能解析学) 中枢神経系の機能異常に基づく慢性疾患の病態生理および治療戦略に関する講義を行う。また最新の文献から得られる情報をもとに教員との議論を行い、当該分野における研究の動向や課題について理解する能力を養う。(那波宏之/木口倫一/難波寿明)</p> <p>(衛生薬学) 肝臓、肝外組織における代謝酵素の発現調節機構や生理機能に関する新しい知見を学び、疾患や副作用との関連性を議論しその理解を深める。(太田 茂/佐能正剛)</p>
授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100% (討議内容、ディスカッションへの参加姿勢、研究技能の修得状況、発表内容など) によりS (90点以上)、A (80~89点)、B (70~79点)、C (60~69点)、D (59点以下) の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー (学生からの質問事項等への対応)	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	特に指定しない。